

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 教育学部、教育学研究科	3

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
教育学部、教育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 教育学部、教育学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 4)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

下記に示す改善を要する点があるものの、研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 令和元年度に教員人事会議を設置し、これまで各講座発議の教員人事を改め、全学的な教育研究の視点からこれまでにない分野領域の研究者、教科教育研究者で学校現場での教職経験を有する者に絞っての採用を行うようにした。また、新規採用教員は原則 40 才以下とし、テニュアトラックの適用、学校実務経験のない者には実地研修を実施することとした。
- 教員キャリア研究機構の中に、第 2 期中期目標期間の実績と第 3 期中期目標期間での教育的課題や必要性から数個の部門を設け、運営委員には外部の有識者を起用してきている。

〔改善を要する点〕

- 利益相反に関する規程が定められていない。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、2 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。